

平成27年度長崎市提案型協働事業

2次審査会・中間報告会 会議録

◆ **日時**：平成27年10月18日（日） 14：30～15：00

◆ **場所**：市民会館 6階 第2・3会議室

◆ **出席者**

審査委員長	山口 純哉	（長崎大学経済学部 准教授）
委員	今村 晃章	（NPO法人ミディエイド 代表理事）
	古賀 弥生	（活水女子大学文学部 教授）
	中田 慶子	（NPO法人DV防止ながさき 代表）
	松本 敏子	（（有）松環舎）
事務局	市民協働推進室	

◆ **次第**

2次審査

（1）絶滅危惧ー長崎文化再生事業【長崎町人町プロジェクト／まちなか事業推進室】

中間報告（継続審査）

（2）長く元気で！応援事業【ながさきダンカーズ倶楽部／高齢者すこやか支援課】

（3）アクティブ世代のスポーツライフ支援事業

【（特非）長崎ウェルネススポーツ研究センター／健康づくり課】

1 公開プレゼン2次審査会・中間報告会（継続審査）

◆ プレゼンテーション後の質疑応答

（1）絶滅危惧—長崎文化再生事業【2次審査】

【委員】

作成した冊子の活用方法、配布先についてお尋ねしたい。企画書によると、配布先の中で市内小中学校が600部となっているが、限られた冊数の中で600部を小中学校に配布しても、ほとんど子どもの手には渡らないのではないかと思う。そういった配布をするよりは、その地域のPTAや保護者と子どもたちに対して何かイベントを行い、冊子を配布して、具体的に伝えていくような方法の方が冊子の活用としてはいいのではないかと思うが、どのように考えているか伺いたい。

【長崎町人町プロジェクト】

先ほども申し上げたが、イベントは並行して行っていこうと思っている。ただ、どうしても地域が限定されてしまう。こういった町人文化を知っている地域、家庭は長崎市の中でもごく一部だと思う。そのため、この冊子を地域限定で配布しても意味がないと思っている。むしろ、市全体に発信することの方が重要ではないかと思う。確かに600部を配布しても、子どもたちの手に渡ることはないかもしれないが、例えば各学校の図書室に置いていただいたり、何かの機会に教材として活用していただいたりするなど、これを学校の中で活かしていただく方法はあると思う。「自分たちの知らない長崎の文化がある」ということを先生方に知っていただき、それを子供たちに知らせていただきたい。

あくまで中心市街地だけではなくて逆に広域にわたって発信する方が、効果があるのではないかと考えている。

【委員】

先ほどと同様のことになるが、配布先について伺いたい。あまり先に広げてしまうと、薄まってしまうので、やはり地元の方から重点的に伝えた方がいいのではないか。学校に10部ぐらい配ったところで、実際学校も忙しいので、特に関心を持った先生でないと埋もれてしまう可能性が多いにあると思う。

やはり地元の商店街や地元の学校の方からきちんとお伝えしていくような体制を整えてから、それから市内の方に広げて行った方が、効果が上がるのではないかと思う。

昔食べていたものを学校で試食をしてもらうとか、味も伝えなければ美味しさが分からないと思うので、「金頭、美味しいよね」と言っても、食べたことがないと若者が分からなくなってくるので、まずは地元の方たちに認知度を上げたうえで広げていく方が、段階的には良いのではないかと思う。

【長崎町人町プロジェクト】

分かりました。浸透させていくには、時間がかかると思う。まずは地元からということに変えていこうと思う。

【委員】

協働事業の目標にも関わる部分になるが、この事業の目的として、「歴史教育」と「地域の活性化・観光の推進」と2つ分かれている。観光の推進から地域の活性化につなげていくと考えたならば、まずは地元の方に知っていただいて、そこからイベントを企画するということにつなげていくなど、段階を踏

んでいくことが王道なのかなと思う。冊子については、一般に配るもの、企業に配るもの、学校に配るものが同じ冊子となっているが、本当に歴史教育に使おうと思うのであれば、子ども向けに作った方がいいのではないかなと思う。

また、目標とされていることが、例えば通行量が増えるとか、そういうところもあるのかもしれないが、おそらく短期的にこの協働事業の中で目標としているところでは、そこまではなかなか難しい。この事業をやったことで本当に実現することは何かと考えた時に、今設定されている目標、1～2年以内に実現することと10年後に実現することというのを、もう少しお聞きしたい。

【長崎町人町プロジェクト】

2次審査までに事業調整会議を数回行う中で、成果指標が一番難しい部分となった。実際、通行量調査にしても確実なものではない。例えば、催事が行われている時はものすごく多いし、そうでない時は少ない。そういった状況を踏まえると、指標というのはものすごく難しいと感じている。その中で、今、考えているのが、まちぶら認定事業の数が年々上がっていくことを考えている。また、短期的な効果としては、町人文化を活かした形で新しく出店した店舗の数、企業が町人文化を活かした形で商業展開をする数などを考えている。町人文化を活かした動きが出てくれば、それが一番直接的な効果として見えてくると思う。

学校についても、あくまでも生徒ではない。先生に気づいて欲しいということ。だから、短期的にはそのきっかけづくりになればと思っている。長期的には、それが浸透していくこと、誰でも知っているような状態になっていくのが10年後に目指す姿と思っている。まずは、地域の中で町人文化を活かした様々なイベントや店舗、商品が出てきたことが少しでも目に見えれば、十分成功だと思う。

【委員】

少しでも目に見えてくればというのは、この事業の1年間で少しでも見えてくればということか。

【長崎町人町プロジェクト】

そのように思っている。実際に、別の事業を行っていく中で、去年よりも今年と見えてきている。長崎の町人文化が実は魅力あるものではないかということに気づき始めているので、今回の提案事業でそれを加速させていければと思っている。

【委員】

一次審査会で指摘したところを非常によく検討されていたと思う。この事業では、冊子を作成したあとの活用の仕方が一番重要だと思う。冊子を活用していくためには、冊子をもった人が努力するというのももちろんだが、もらった人が努力するためには冊子を渡した人がきちんとアプローチしないとなかなか難しいと思う。配布側としてどういった努力をされるのかというところが、重要になってくると思う。団体の方は実際に事業で使っていくなど見えているところはあるが、まちなか事業推進室の方は、今回の役割分担の中で広報や配布活動を担っているのだから、広報と配布という部分において、もらった人が活用するようなアプローチをどのように考えていらっしゃるかお尋ねしたい。

【まちなか事業推進室】

冊子の活かし方になってくると思うが、その前にこれまでの経過を少し説明したい。今、長崎市のまちぶらプロジェクトの中で新大工から大浦までのエリアにかかる事業を行っているが、その中で「中島川・寺町エリア」では、長崎の和にもう一度磨きをかけて、その魅力を顕在化していこうという取り組

みを行っており、ソフト的な取り組みや町家の再生などを行っている。その中心になっているのが、長崎の伝統歳時、長崎の和だと思っている。長崎の和は、中国文化などが少し混じった文化であり、他の地域の和とは違う。そういった長崎の和を顕在化していくことで、今後の活性化の核にしていきたいと思っている。

長崎の和の文化の中には色々な歳時があるが、今は実際に行われていない歳時がある。今なら、まだ教える方がいるので、行われなくなった歳時がどういったものかを実際に教えることができる。今回こういった方々のヒアリングも含めて、次の世代にきちんと伝えていっていただくための、ベースになるものを紹介していきたい。

今回の事業とは別に歳時記カレンダーの作成も行っているが、これを2年間やったところ、先ほど少し話があったが、最近で言うと「もてなしや」や「チョコレートハウス」ができるなど、民間の企業の方の中島川・寺町地区に対する見方が変わってきたと感じている。また、まだ形になっていないが今年に入って相談も増えてきている。こういった動きを、行政、地域が、新規のこういった意欲のある方、企業の方が協力する形の中で、地域の中に溶け込ませていく、そのきっかけづくりになるのがこの冊子ではないかと思う。だから、新たに入れていただく方に対し、魅力を伝えるものになるのではないかと考えている。

【委員】

協働事業で提案されているものだけでなく、すでに長崎市が取り組んでいる他の取り組みにおいても、きちんと配布していきたいということによろしいか。

【まちなか事業推進室】

結構です。

【委員】

先ほど、商店街の中でも取り組んでもらいたいとの話があったが、実際に協力してくれそうな店舗とか企業とかそういったところはあるか。

【長崎町人町プロジェクト】

いくつかある。実際に、3月の桃の節句では「こういう風にやるんだよ」とご紹介していただいたりもした。

～質疑終了～

(2) 長く元気で！応援事業【中間報告（継続審査）】

【委員】

とても良い冊子ができあがっている。ここからの活用が難しいところになってくると思う。質問は2点。少し細かい部分になってくるが、来年度の予算の人件費について、時間単価が900円となっているが、その根拠を教えてください。

もう1点が、収入の面について。今回は、行政提案による協働事業ではあるが、例えばこれが協働事業でない場合やこの協働事業が終わったあと、ながさきダンカーズ倶楽部としてこの事業をどのように展開していくのかということ踏まえて、自主財源やその他の収入をあげるという考えがないかを伺いたい。

【ながさきダンカーズ倶楽部】

時間単価900円の根拠については、現在、長崎の最低賃金がいくらだったか…。今、スーパーマーケットのレジ打ちの時給が800円です。4年前、私たちは時給1,000円という形で協働事業を提案したが、1,000円は高すぎるということでお互いに調整をして900円と設定し、これで5年目に入っている。これが900円の根拠です。

もう1点について、私たちは、定年退職した人たち、団塊シニア世代の人たちのプラットフォームという活動をやっていて、現在約70名のメンバーがいる。その人たちの参加費で活動を運営しているが、今回は新たに私たちの世代ではなく、現役世代を対象にした方との交流も含めて、新しい長崎の活動の形と考えている。正直言って、今回これだけの事業をやっていくという中では、私たちの財源だけでは当然賄えないということで、長崎市との協働事業、委託事業としてやっており、これを次年度もやっていこうと思っている。

【委員】

例えば、体験会やセミナーについては、参加者の方からの参加費を取るということも、不可能ではないのかなと思ったが…

【ながさきダンカーズ倶楽部】

セミナーについては、対象を企業と行政と考えている。来年度はそれに加えて公民館講座を考えている。体験会については、事業が2年目ということで、まずはこちらの方で環境をつくっていくという部分なので、参加費を徴収するという考え方は全くない。

【委員】

今後もか？

【ながさきダンカーズ倶楽部】

環境ができるまでは、この体制でやっていきたいと思っている。

【委員】

フェスタについて、お尋ねしたい。フェスタは、今年度もこれからという状況と思うが、次年度の提案の中で、提案書の内容ではそんなに違いがある感じではないが、予算書の方では講師謝礼などが結構金額が高くなっている。おそらく今年の内容と来年の内容は何か違うのかなと思うが、そのあたりを

教えていただきたい。

【ながさきダンカーズ倶楽部】

今年度は、手作り…まず1回目ということで、私たちができることをやっていこうということで考えている。それをやる中で、来年度はどうするかということが具体的に出てくるとは思っているが、実は長崎市の1年間のきちんとした事業、イベントとしてやっていきたいという想いがある。1月10日は二十歳の成人式、そして60歳を楽しむイベントをやっていこうということで、1月11日を考えている。来年、再来年のフェスタに関しては、この現役世代にもっと元気を出して何かやろうよというきっかけづくりがきちんと伝えられるような多少は名前が通った、人が集められる方に来ていただきたいということで、フェスタの講師謝礼金については30万円程度を設定している。そこが、今年度と来年度の違いになっている。

【委員】

今、言われたことは、協働事業終了後もやっていきたいということか。

【ながさきダンカーズ倶楽部】

やっていきたいと思っている。

【委員】

それは、市の担当課の方も、そういった考えを共有したうえで、今後やっていこうということになっているということではよろしいか。

【高齢者すこやか支援課】

そうですね。どうしても、高齢者すこやか支援課だけでは、対応ができないと思うので、その辺は行政として、どこがどんな風な役割を持ってということで、検討しながら考えている。

【委員】

セミナーとフェスタのことだが、1回ドーンと大きなイベントをやるよりも、セミナーの開催も重要だと思っている。その辺りをどう考えているかを教えていただきたい。

また、配布先に対して、送料が5,000円というのがあるが、会場で配布するものと郵送するものをどのように計画されているのかということも教えていただきたい。

それと、先ほど時間単価900円の話の中でスーパーのレジ打ちが時給800円ということだが、県庁のアルバイトの方が時給750円程度でやっていることを考えると、やはり少し高いかなという感じがするが、その部分について考えをお聞きしたい。

【ながさきダンカーズ倶楽部】

セミナーに関しては、企業、これは50歳～60歳の現役世代を対象にしたものであるが、長崎で50歳代、60歳代を多く抱えている企業がいくつあるかということを見ると、大きなところで三菱等々しかない。そういう部分で、企業を対象とするだけでは、なかなかセミナーの開催ができない。今年は、このセミナーの回数を2～3回を予定しているが、そこで色々やってみて、来年度はどのくらい広げられるかと考えたのが公民館講座。去年、公民館講座でこの世代を対象に「夢を形にする」という講座を3回やった。そういうことで、各地の公民館でこのガイドブックをテキストにした講座が開催できないかなと考

えている。

郵送料の5,000円については、各企業にこういったものができたので、セミナーを開催してみませんか
と提案するための郵送料と考えている。

時間単価の900円については、県庁のアルバイトうんぬんとその事業をやる従事者を比較することがお
かしいと思う。これは、これまで5年間、私たちがやってきたノウハウをここで全て発揮して事業をやっ
てきているので、県庁等の時給と私たちの活動の時給を比較することは違うと私は思っている。

【委員】

イベントについては、無料でいいのかな？というのが気持ちとしてあるが、その辺は色々あるよう
なので、今回は広くアピールしていこうというお考えと理解していいか。

【ながさきダンカーズ倶楽部】

そうです。

【委員】

時給については、団体に専門性を活かしてということなので、それはそれでいいのかなと思っている。
本当はもっと高く出すべきだというお考えがありながら、この金額でやっているという感じもするので、
この件については、私は理解した。

イベントで、来年度は有名な方を呼ぶということだったが、今年のイベントはまだ終わっていないの
で、どのくらい集まって、それを次はどうするかというのは予想も難しいとは思いますが、集客はどのくら
いと考えているかを教えていただきたい。

【ながさきダンカーズ倶楽部】

ながさきダンカーズ倶楽部は、2年前に長崎市との協働事業の中で「ダンカーズフェスタ」を松ヶ枝
国際ターミナルで開催した。その時は約200人の集客があった。そうすると200人にプラスして100人なの
か200人なのかというところだが、今年度のフェスタでは最低300人の集客を目標としている。

【委員】

今年度実施するセミナーについては、どういったところにどういった形でされるかということ詳しく
教えていただきたい。

【ながさきダンカーズ倶楽部】

セミナーについては、来月、長菱エンジニアリングという企業で行う。そこで2年間、ライフセミナ
ーを担当していて、今回はそのセミナーを基にしながら、このガイドブックの作成にあたった。ですの
で、出来上がったガイドブックをテキストとして、50歳代から退職する前の方たち約60名を対象にセミ
ナーをやる予定です。

そのあと、長崎市、長崎県の退職者のライフセミナーも予定しておりますが、これだけをやると時間
がかかりすぎるということもあり、セミナーの時間も限られているのでなかなか難しいということで、
このガイドブックを配布させていただくという形になるのではないかと考えている。

【委員】

私の方から1点だけ、担当課にお尋ねしたい。先ほども少し話が出ていたが、委託でこの事業をやる

ということは、当然、長崎市がこの事業をやるべきことだという認識でいると思うが、フェスタについては、委託でやっていたのを単年度事業だからということで突然打ち切りとかが、行政だったら往々にしてよくありがちだが、基本的には当面の間はこういう形で生きがい構築の事業をやっていこうというような意思決定が市の中のでなされていると考えていいのかお尋ねしたい。

【高齢者すこやか支援課】

長く元気で生きようということに取り組んでいかないといけないので、高齢者の方々に若い世代を巻き込んで、地域を支えていく人たちのたくさん育てていかないといけないというのが高齢者すこやか支援課の目標としてあるので、少しでもPRできる機会などは設けていかないといけないかなと思っています。

【委員】

その時の主要な柱はこの事業だという位置づけで、今、動かれているという理解でいいか。

【高齢者すこやか支援課】

この事業も長崎市が行っている「長く元気でプロジェクト」のひとつと考えているので、その中でやっていきたいと思っている。

【委員】

まだまだ試行錯誤段階で、当然これがなくなる可能性もあるという理解になるか。

【高齢者すこやか支援課】

なくなるといいなというか、そういったところです。

～質疑終了～

(3) アクティブ世代のスポーツライフ支援事業【中間報告（継続審査）】

【委員】

私自身が、ノルディックウォーク自体をあまり知らないため、そもそも何故ノルディックウォークなのか、ポールを持つということであまりハードルが上がるとは思わないかと思うので、何故ウォーキングではいけないのかということをお聞きしたい。

もう1点は、参加者の中のポールの持参率について。参加者がたくさん増えるとポールが足りなくなるとは思わないのか、予算の中にはそういった経費が全く入っていないので、そのあたりを考えておくべきではないかと思うので、教えていただきたい。

【(特非) 長崎ウェルネススポーツ研究センター】

昨年度も何故ノルディックウォークなのかという質問があったので、少しまとめておいた。ノルディックウォークに関しては、上半身を有効に使える全身的な運動で通常のウォーキングよりも約20%のエネルギーの消費量が多くなる。そういったことを踏まえ、より健康に、よりアクティブにと考えれば、ウォーキングよりもより有効なのではないかと考えている。市民意識調査を見ると、運動の習慣化を考えた場合、今後どんな種目をやりたいですかという質問に対しては、やはりウォーキングが多い。高齢者であれば通常のウォーキングがいいと思うが、よりアクティブな世代に対してはノルディックウォークを使って、より体力を充実させていってほしいという意図がある。

最近の傾向として「ジョガー」「山ガール」という言葉が出てきたように、スポーツがファッション的に捉えられてきたところもあるので、ノルディックウォークの格好よさ、スマートでファッションを楽しみながらやってみませんかというところから広げていけたらなと思っている。さらには、長崎市の地域特性として坂が多かったり、階段が多かったりするので、坂や階段をノルディックウォークで歩くと膝への負担が軽減されるということもあるので、身近になればいいかなということで提案させていただいた。

ポールに関しては、昨日、伊王島で行った教室では1/3ぐらいの方が持参していた。5月に3回の教室を行った後に、ポールを購入したいという声をいただいて、ポールが購入できるお店を紹介したり、我々の団体でもこういったポールであれば購入できますよということでもいくつかポールの斡旋をしている。やはり、運動を習慣化するにあたって必要なもの、ポールを自分で買ってもらいたい必要があると思っている。来年度のクラブに関しては、できれば習慣化したいという方も呼び寄せたいので、ポールも購入してくださいということでやっていければなと思っている。

【委員】

来年度の事業にあたって、団体の方でポールを補足して準備する必要はないと考えているということか。

【(特非) 長崎ウェルネススポーツ研究センター】

現在、我々の法人で30人分は貸出できるように確保している。

【委員】

今回の事業の中で、狙った年齢層よりも上の世代の方の参加が多いということがあるようなので、今後のどのように考えているかを教えていただきたい。

また、せっかく市の事業としてやられているので、ある程度の効果測定、「1年、2年やったらこうい

う効果がある」というようなものがあつた方が、今後のことを考えるといいのではないかと思うが、その辺をどう考えているかを教えていただきたい。

【健康づくり課】

実際に開催してみると、参加者の年齢層は65歳ぐらいが中央値となっていて、これをどう若い方へ寄せるかということが課題だと思っている。来年のイベントに関しては若い人が集まるイベント等で体験コーナーを設け、ポールを触っていただいたり、歩いていただいたり、ノルディックウォークというのはこういった効果がありますよということを周知することで、若い方にもPRしていきたいと思っている。

また、我々健康づくり課の方で「健康ながさき21」という健康づくりの計画があり、それを構成する団体には働き世代の方たちが団体としてしているので、今回のノルディックウォーク教室もそちらの方にもPRのチラシを配布して、何とか働く世代にも参加を募っている。

効果測定については、どんな形でやるかというのがあがるが、例えば参加された方にアンケート調査をするなどして、実際続けられるかどうか、続けられないのであればその理由は何なのかなども検証していきたいと思っている。

また、健康意識調査というのをやっていて、その中にノルディックウォークに関する項目を載せているので、効果とは違うがそういった調査の結果も検証していきたいと思っている。

【(特非) 長崎ウェルネススポーツ研究センター】

効果測定に関しては、他の自治体の事業で、ある程度の実施期間がある方や習慣化した方々の体力評価等は行っているのので、できれば今後ノルディックウォークのクラブがうまく軌道に乗れば、習慣化された方々の体力測定を行い「やっていない方と比べるとこれぐらいの体力がありますよ」ということを我々も発信していければいいなと思っている。

【委員】

今おっしゃられたことは非常に重要だと思った。実施団体が高い専門性を持っているので、そういったデータを行政の今後の施策に活かしていくことが大変重要な協働のメリットになってくと思う。

ノルディックウォークについては、今はまだ普及していくという段階だとは思うが、ポールが必要になるなどお金や時間も必要なんだろうなと感じているので、そこが現役世代の方よりも上の世代の方の参加が多い要因ではないかと思う。お金や時間に余裕のない現役世代の人ができるような呼びかけ方がノルディックウォークに関して考えられないのか。あまり突っ込んでいうと、これ以外のスポーツだって色々あるのになという言い方をされる場合もあるかもしれないが、そのあたりをどう考えているかを教えていただきたい。

【(特非) 長崎ウェルネススポーツ研究センター】

ノルディックウォークをやるにあたって、色々な選択肢があればいいかなと思っている。現在、指導スタッフとして一緒にやらせていただいているノルネス長崎の方々が、月に2回の定例会ということで、日曜日と平日の夜、仕事が終わってから活動されているので、そういった団体も紹介している。参加者の皆さんが自分にあつたところを選べるように、我々の中でも仕組みづくりができればなと思っている。10年ぐらいやっているランニングクラブにしても30代、40代の方が結構多く、お金出してでも皆さんで楽しみたいという想いがあると感じている。クラブの中でコミュニティが色々できているので、あのクラブに入ると友達が増えるとか、プラスαの楽しみが増えるということで効果を出しているところがあ

る。ノルディックウォークもそういった形になっていくといいかなと思っている。今、こういう活動をしながらか、色々な方が気軽にできるようなチームを作って、それをうまく広報していければなと思っている。

【健康づくり課】

やはり道具というのが少しハードルになっていることもあると思う。ノルディックウォークが皆さんに知られるようになってきて、でもポールを買うのがちょっとという方がいた時、実現できるがどうか分からないが、できれば主要な大きな公園などにポールをレンタルというか、据え置いて自由に使うとか、管理をどこかにお願いしたりしないといけないとは思いますが、気軽に借りて、運動公園を30分ぐらい歩いてもらって管理事務所に返すとか、もし環境が整えばそういうことも考えてみたいかなとは思っている。

【(特非)長崎ウェルネススポーツ研究センター】

来年度のイベントやクラブに関しては、基本的に有料でやるということを進めていきたいと思っている。普及啓発などの入り口は無料で行って、体験してもっとやってみたいと思った人については、ポールを買うこともひとつの習慣化のきっかけになるのではないかと、ポールを買ったから続けてやってみようという気持ちになればいいのかなと思っている。ただ、必ずしも全て有料がいいのかということについては、我々も難しいところかなと思っている。

【委員】

実際に事業を見学して、見学だけでなく体験もさせていただいたが、その見学の際に転倒された方がいらっしまったと思う。安全管理の部分については、起こらないようにすること、起こったあとどうするのかをスポーツですので考えておかないといけないと思うが、協働事業でノルディックウォークの企画をするにあたって、そういったところをどういうところまで考えているのかを教えていただきたい。

【健康づくり課】

ちょうど事業見学があったときに、参加者が転倒して歯が欠けてしまうということがあったが、その後元どおりになったということを伺っている。教室の開催にあたり、保険をかけているので、今回はその保険で対応した。それは市の事業でも色々な事業をやっているんで、保険は年間を通した形でかけている。もちろん救急用具も備えているが、今回は歯が欠けたということで救急対応はできなかったが、平日の教室は70代80代の方もいらっしやるので、ちょっとしたところではつまずいたりとかもあるので、安全管理には気を付けていきたいと思っている。

【(特非)長崎ウェルネススポーツ研究センター】

事故が起きたときの対応や安全管理などについては、こういったときはこうするという感じで、今後考えていきたいと思っている。

～質疑終了～

◆ 委員長総評

みなさんお疲れ様でした。

3団体とも非常に熱のこもったお話を聞いて良かったなと思っている。それでは、少しコメントをさせていただきます。

まず、長崎町人町プロジェクトとまちなか事業推進室については、非常に大事なことで、多くの協働事業で最初に問題になるようなところが、やっぱり大丈夫かなということになった。というのは、今、地方創生とか言われているが「創生」って何だという問いに答えられる人はほとんどいない。100人100様の理解があって、それは長崎町人町プロジェクトの「賑わい」や「活性化」なども同じで、協働事業をやるというときに、これが行政と民間であろうと民間と民間であろうと、そのゴールの姿をどうイメージするかが大切になってくる。単に中通りにたくさんの人が歩いていたら賑わいがあるという話なのか…。元気がある商店街に佐世保の四ヶ町商店街が選ばれるけど、実は四ヶ町商店街は全然元気がない。要は売り上げが上がっているということではなくて、イベントで人はたくさん集まっているけれど、それが本当の意味で活性化しているのかと言われると、それはちょっと違うよねということになる。そういう意味でいうと、やはり目指す姿がどういう状況なのか、整理しておく必要があると思う。これは、今、整理されていることとは思うが、学校や子どもたちに対する文化の理解という話と商店主の皆さんにこういう情報を使ってもらって何か新しい取り組みをやって、それをきっかけに外から集客をしていこうという話と、結局目指すところがどこなのかということによって、どちらの方が大事なのかということも決まってくると思う。もし採択ということになれば、そのあたりは整理しながら進めて欲しいと思う。これは、長崎町人町プロジェクトだけに限らず、他の事業も同じで、我々もどこかと一緒に事業をやるというときに、どこを目指すのかというのは共有しておかないと難しいところなのかなと感じている。

次に、ながさきダンカーズ倶楽部と高齢者すこやか支援課、NPO法人長崎ウェルネススポーツ研究センターと健康づくり課については、ながさきダンカーズ倶楽部の方には少しいやらしい質問もさせていただきましたが、要は協働事業がうまくやっていこうといったときには、お互い覚悟が必要になってきます。行政の場合は、元から公の利益の実現に取り組んでいるので、だまっけてもそれなりの公の利益の実現というものについて確保ができてはいるはずなんです。一般的によく言われるのは、NPOや市民活動団体の方は、公の利益を実現するだという覚悟が足りなくて…ということがあったりするが、うまく進んでいくと、これが逆転する時がある。民間の事業者の方は、形としてもきちんとしたプログラムを組んで、今回の2件ももしかしたらそうなのかもしれないですが、公の利益を実現するために頑張る。ところが行政の方は、行政のやるべきこととして委託でしっかり出すということを決めるが、気付いたら来年なかったみたいなこととか、そういう話はよく聞く話なんです。だから、いずれの事業についても上位の計画があって、その中で例えば「生きがいを見つけていく」とか「健康づくり」というのを進めていくということは当然決まっているが、それが何故ながさきダンカーズ倶楽部と一緒にやっていくのか、何故NPO法人長崎ウェルネススポーツ研究センターとやっていくのかという位置づけを、行政側でやっておかない限り、単にいつまで経っても実験状態、やってみるだけの状態になる。もちろん最初のうちは実験ですので、最初1年間やってみて、もうダメだと思えばスパッと切るということも当然あると思うが、どうも今やっているのを見ると、ある程度いい意味での癒着というか、いい意味でしっかり手を組んでやってらっしゃる。ただ、それを継続して発展させていくためには、行政側が自分たちの目指すべき戦略、目標の中でその事業をどう位置づけるのかというのが重要になってくるというのが、今出てきたのではないかなと思う。

協働がうまくいっているときや、振り返ってみてバーンと始めた協働を見てみると、担当者が良かつ

ただだよねということもよくあることだが、やはり組織の中でしっかりこの事業はここと組んでやるということがどういう意味を持つのかをきちんと考えることが大切だと思う。もちろん1回やり始めたから、ずっとやらないといけないという話ではなく、効率が悪ければ、良くなければ、それは当然やめるという選択肢もあっていいと思うが、そこはきちんと位置づけていくことが重要なかなと思っている。

いずれも事業についても、非常に重要な課題に取り組んでいると思う。長崎町人町プロジェクトの長崎文化再生事業は、地域の文化がどんどん失われていく、個性、個性と言われつつ失われていくということが、今でもあるわけなんです。ながさきダンカース倶楽部の生きがいの創出についても、先ほど長崎大学病院のボランティアの話もあったが、私がちょうど大学病院に入院中でして、こういったボランティアの働きもすごく大切なんだなと感じたところです。NPO法人長崎ウェルネススポーツ研究センターについても、地域の健康増進、介護予防などが色々なことが最近はあるが、言葉が悪いが「ピンピンコロリ」と言うか、いかに元気な状態を長く保つか、そういう状況をいかにつくるのかという意味では非常に大切な話だと思うので、引き続き積極的に取り組んでいただければなと思っている。

以上が、総評ですが、最後に…、これは事務局とも相談をさせていただきたいと思うが、今回の1次審査をご覧になった方はプレゼンしていた団体が2団体あったということをご存知かと思う。2次審査は結果として1団体となったが、もう1団体は実は途中で辞退をされている。辞退したというのは、行政側と協議したうえで、今回はやめておこうかという合意のもとで辞退したわけだが、そういった情報についても、長崎市の提案型協働事業も結構長く続けてきているので、皆さんの役に立つかは分からないが、何だかの形で事務局とも相談して、情報の提供ができるようにしていきたいと思っているので、もしそういう情報が出せるようになれば参考にさせていただいて、皆さんの活動の充実につなげていただければなと思っています。